

丸新志鷹建設

ブータンで工事受注

日本企業初 国道など整備

丸新志鷹建設（立山町岩崎）志鷹新樹社長は、ブータン王国（中国）で政府発注の工



事を受注した。国道など3工区（総延長約80km）の道路建設で、請負額は日本円で約15億円。用地取得の最終段階に入っており、来年1月中旬にも現地に社員を派遣し工事を本格化させる。同社によると、ODA（政府開発援助）以外で日本企業がブータン政府から工事を受注するのは初めて。受注したのは、ブータン南部に整備する国道など3工区で、将来的にはインドと結ぶアジアハイウェイの一部になることが期待されている。3年かけて整備する。ブータンでは国全体が山岳地帯のため、政府にとって移

動手段を確保するための道路網整備が最優先課題の一つとなっている。今回の工事は、アジア開発銀行（ADB）がブータンの貧困を軽減するため支援する道路ネットワークプロジェクトの二環。現地では地元の会社が下請けとして参画し、日本国内から派遣した丸新志鷹建設の社員が施工を指導する。機材などは同社

ズーム
ブータン王国 人口約60万人、面積は九州とほぼ同じ約4万平方km。ヒマラヤ山脈の南側にあり、インドと中国の中間に位置する。首都はティンブプー。GNH（国民総幸福量）を国家目標に掲げ、国民の心の豊かさを追求するユニークな政策で注目を集めている。ことし11月には田交樹立25周年を記念しブータン国王と王妃が来日し、日本との友好関係を深めた。

同社は山岳地帯での土木工事を得意とする。積雪のある冬場には国内工事が減るため、今後もネパールやブータンにインドを加えた南アジアでの工事獲得に力を入れ、一定の仕事量の確保を目指す考え。志鷹社長は「現地の人たちと良好な関係を築き、南アジアでの営業を展開していきたい」と話している。

現地の政府や工事関係者らと国道などの整備について打ち合わせをする志鷹社長（左）とブータン王国



ブータン近隣のネパールに支店を開設。ネパールでの工事実績を重ねており、今回初めてブータンの工事に入札参加した。2008年にスタートしたネパールでのメラムチ川の水道供給計画に絡んだアクセス道路の改良工事の実績などがブータン政府から評価されたという。